

# 審判員派遣報告書

派遣事業名	2022年度 第3回全国U15 バスケットボール選手権大会	派遣期日	令和5年1月4日～6日
報告者	岩瀬寛明	派遣先	東京都調布市

## 1 大会概要

大会名称	2022年度 第3回全国U15 バスケットボール選手権大会	大会期間	令和5年1月4日～6日
大会概要	各県を勝ち抜いたチームと協会推薦を受けたチームの男女各52チームの トーナメント方式		

## 2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和5年1月4日	会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ
審判クルー	CC: 豊島浩章（東京） U1:岩瀬寛明（香川） U2:村田真（東京）		
担当試合	相模女子大学中学部（神奈川） VS れいめい中学校（鹿児島）		
試合内容	高さで上回る相模女子が前半から大量得点したゲーム。れいめいも1対1で対抗するが、リードを守り切った相模女子が勝利した。		

日程	令和5年1月5日	会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ
審判クルー	CC: 岩瀬寛明（香川） U1:小池誠一（新潟） U2:大津廉（宮崎）		
担当試合	横浜ビー・コルセアーズU15（神奈川） VS 長崎ヴェルカU15（長崎）		
試合内容	前半で横浜が大量リードを奪ったが、長崎が後半に追いつき、3点差を争う緊張感のあるゲームとなった。両チームとも1対1が中心であった。		

日程	令和5年1月6日	会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ
審判クルー	CC: 加藤暁生（東京） U1:岩瀬寛明（香川） U2:片山峻（京都）		
担当試合	佐賀バルナーズU15（佐賀） VS 四日市メリノール学院中学校（三重）		
試合内容	両チームとも1対1が多く、ディフェンスとのコンタクトがとても多いゲームであった。真上に跳んでいるものとそうでないものの区別が必要なゲームであった。		

## 3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

### ●デリバリーについて

普段県内では経験し得ないような広い会場で、選手・コーチ・観客に判定したものをどのように伝え、リスタートの位置、クロックの管理を表現するのかが課題であった。4Q残り2分を切った場面でシュートイン後にクロックの訂正をしたが、選手がタイムアウトと間違えることがあった。TO席にかけ寄るのではなく、声を使ってスムーズに訂正できればよかったとポストカンファレンスで反省を行った。選手への声のかけ方もとても勉強になった。バイオレーション、ファウルを判定する中で、

同じ状況が続かないようにするためにも、選手たちに何がいけなかったのかを分かってもらうことが大切である。そのために判定の後に声をかける、または判定する前の声かけも可能である。(フリースロー、バイオレーション、シリンダーファウル等)

#### ●PGC の内容の徹底について

PGC はゲーム中の約束事や、クルー同士で不安に思っていることを確認する場である。どのような場面でどうするのか、事前に確認したものを試合を通して続けることでメカニクスが強くなる場面が多々あった。逆にそれができていないとクルー内に不安要素が生まれ、自分たちのノイズになってしまう。マニュアルやコーリングガイドラインを含めて、決まり事をいかに大切にできるかの意識付けとなった。

#### ●ゲームを感じることにについて

6日のゲームでは、インターバルやタイムアウト中にクルーで多くの会話を交わした。内容はゲーム展開の予想、PGC の内容と実際の相違、ゲーム中に感じた不安等様々であった。その中でも特にゲーム展開の予想をしておくことで自身のレフェリングに余裕が生まれる場面があった。オフェンスでは1対1にこだわるのか、それともスクリーンがあるのか、ディフェンスではどこでダブルチームがありそうかを話すことで、自分が考えていなかった状況についてもイメージすることができ、その準備をしっかりとすることができた。とっさに起こったことを判定しようとしたときに確認不足や判定の誤りが起こる。そういった意味ではゲームを感じ、何が起こるかの準備をすることが安定したレフェリングにつながるのだと強く感じた。

## 4 その他

U15 選手権はBユース、クラブ、中学校と様々なチームが出場し、それぞれで戦い方が違うことをとても感じた。特にBユースチームは個の能力の育成に力を入れており、個人技を使ったオフェンスや1対1が中心であるのに対し、中学校やクラブは戦術的な面が大きく、多種多様なバスケットにふれることができた。しかしそれゆえに、バスケットの知識が豊富でなければレフリーとしてコートに立ったときに正しい判定をすることはできないという難しさも感じた。

マンツーマンディフェンスについても、今回自分の担当したゲームで旗が振られることはなかったが、もし振られた場合どのように処置するのかをしっかりと確認しなければならない。コミッショナーとも連携して、適切な処置をしたい。

今年はいよいよ香川県での全中が開催される。県外審判員からも香川全中に向けての励ましのお声かけを頂き、香川全中に参加できるようにがんばっているという方もいらっしまった。今回のような全国大会に参加させて頂くことで、レフリーとして自分自身の刺激になるだけでなく、香川全中を気にかけて下さっている方がとても多いことにも改めて気づかされた。全中まで残り半年となった。今回の派遣で自分が学んだことを今後の全中研修で還元し、より多くの県内審判員が自分も県外で経験を積みたいと思ってもらえるような活動をしていこうと思う。

派遣に際してご理解ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様、ありがとうございました。引き続きご指導よろしくお願ひ致します。